

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイ・児童発達支援ミーサ				公表日	2026年	2月	25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	基準値以上のスペースを確保していますが絶対的スペースが狭いため、配置などを工夫している。	静かに学習のできる部屋を確保しています。それでも雨天時は狭いと感じるので、十分なスペースの確保に取り組みたいです。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	職員配置基準以上の職員を配置し、手厚い支援体制の人員配置をしています。	女性職員が足りないと感じるときがあるのと、今後は理学療法士や言語聴覚士など、専門職の人員確保をしてゆきます。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	50%	50%	ログハウスを事業所として活用しているため、バリアフリーは難しいです。	将来は、新規の新しい事業を新設してバリアフリー化をめざします。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	毎日、清掃・換気が行われ、清潔に保たれている。	元来、子どものための施設ではないため子どもの活動にあわせた空間ではない部分があるので、随時改善していきたいです。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	50%	50%	個別の部屋は確保できてはいませんが、落ち着けるための空間はあり、使用することが出来る	必要に応じて個別の空間を確保していきたいです。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	毎週行われる定期的に支援会議の中で実施しています。	業務改善のPDCAがサイクルとして回ってゆくよう目標の設定、役割分担を行います			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	アンケート結果を踏まえて集約・分析等を細かく行い日々の支援や個別支援計画の作成に生かしています。	評価表以外でも保護者様のニーズを把握する機会を設け、業務改善につなげていきたいです。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	75%	25%	日々の業務については、翌日の朝の打ち合わせにて振り返るとともに、週例・月例の会議にて意見を把握できる機会があり、業務改善につなげている。	月例の会議は全員参加できていないときもあり、非常勤の職員への情報伝達が足りないときがあるので、全員参加を目指し、多数の意見が出る環境づくりを行いたいです。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	第三者による外部評価は受けられておりません。	第三者による外部評価を受けられるよう働きかけを行っています。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	入職後内部研修を受けるとともに、外部研修も受講する機会を設けております。	外部研修の受講を積極的に受けられる雰囲気づくりをしていきたいです。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	五領域に合わせた支援プログラムを作成し、公表しております。	現状に満足することなく、常にプログラムの内容向上に努めています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	面談で親御様の希望や悩みを伺い、職員間で共有するとともに、日常の療育を通じてアセスメントを行い支援計画に反映しています。	今以上に支援計画の重要性を周知し、日ごろのアセスメントの重要性や計画立案の大切さを周知していきたいです。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	週例・月例の会議にて個々のご利用者様にとって最善な支援を検討する機会を設けている。	職員皆が意見を出すことが出来、最善な支援を検討できる雰囲気を作りたいです。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	個別支援の内容については、随時検討され、共通の認識でサービスを行うようにしています。	計画の重要性を各職員に再認識してもらい、職員間でサービスの質にばらつきがないよう努めています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	日々の行動観察は記録され、職員はだれでも再確認できる状態になっているとともに、小さな事業所であるメリットを生かして、こどもの状況を話し合う機会を設けている。	日々の行動観察に対する評価にばらつきがないよう、個々の職員にフラットな状態での観察を心がけるよう促していきます。			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	本人支援は5領域に沿って計画され、家族にとっての利益、本人の将来像を見据えた移行支援を行っています。	支援内容の精度を高めるため、本人、家族、地域の成り立ちを意識した支援を設定していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	過去のプログラムを踏まえつつ、各プログラムでリーダーを定め、チームとして立案できるように努めています。	皆が活動プログラムでアイデアを出せるよう、会議での発言の場や日常会話で引き出しの場を設けるようにしていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	各職員がプログラムの固定化をしないよう、新しいプログラムを模索しています。	皆が活動プログラムでアイデアを出せるよう、会議での発言の場や日常会話で引き出しの場を設けるようにしていきます。また、ご利用者の発達状況を踏まえて同じ活動プログラムでも内容を変化させていきます
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	個々の子どもの状況をよく考え、負担のかかりすぎない活動を計画するようにしています。	個々の子どもにとって最大の利益とは何かを考え、個別活動・集団活動を組み合わせた計画を行うよう、心がけていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	前日以前に役割分担表を作成して、誰がどの方を支援するかを明確にし、当日、細部の打ち合わせを行っています。	役割分担に盛り込まれていない個々の子どもの予期せぬ行動にも対応できるよう打ち合わせていきたいです。また、非常勤の職員にも情報を伝えていきます
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援終了後ではなく、帰りの会、または次の日の朝の打ち合わせにて振り返りを行っている。どうしても気になる点はメール等で確認をしています。	気づいた点は、職員間で共有しているが、職員間で認識が異なることも多いので、皆の意見をくまなく聞くようにしていきたいです。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	75%	25%	個別の支援の内容は日々記録し、定期的に振り返るようにしています。	印象ではなく正確な事実が把握できるよう、正確な記録を取るよう徹底していきたいです。また、徹底できてないところがあるので改善したいです。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	75%	25%	各関係者と会議の場を持ち、意見の交換を行い、見直しの必要性を判断しています。	日々の気づきを大切に、計画の見直しを適宜行うことで、子どもにとってより良い計画を立てていきたいです。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	75%	25%	常に4つの基本活動を意識しながら支援を行っています。	子どもが主体的に参画できる活動、地域交流などは、やや弱いように思えるので、改善していきたいです。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	子どもにとって主体的に自己選択が出来るよう、いくつかの選択肢を提示できるよう心がけています。	子どもの選択を尊重しつつ、より良い状況に導いていくよう支援を行っています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	会議には状況をよく把握しており、関係機関に状況を正しく伝えられる者が参加しています。	いつも同じ担当が参画するだけでなく、他の担当でも参画できるようなスキルを身に付けていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	計画相談も含め情報共有を常に行うようにしています。	関係機関と連携することによって、その子どもに対して、一貫した支援が出来るよう、心がけていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	75%	25%	送迎時の引継ぎを密に行うようにしています。	情報共有をすることにより、共通した認識で個々の子どもに対応するとともに、普段から情報共有しやすい雰囲気づくりを心がけます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	75%	25%	関係機関との情報共有を常に行うようにしています。	過去の情報はおろそかにしがちだが、過去の情報に重要な内容があることも多いので、相互理解、情報共有を密に行っていきたいです。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	今までのご利用者様で学校を卒業された方がみえません。	障害福祉サービスに移行される方が次年度にみえる予定なので、しっかりと情報共有していきたいです。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	25%	75%	計画相談も含め助言を受けるようにしています。また、研修には可能な限り参加するように心がけています。	研修を必ず受けているわけではないので、研修を受ける回数を増やし、助言を受けやすい状況を作っていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	25%	75%	普段活動している公園で地域の他の子どもと交流する機会があります。	同じ法人内で学童部門があるので、こちらとも交流する機会を設けていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	可能な限り参加するようにしています	参加できていない会合にも参加できるよう調整していきたいです。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡ツールや送迎時に情報の伝達を行っています。	送迎時の会話は職員によって内容が異なるので、バラつきの無いよう保護者様と接していきます。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0%	100%	計画相談を交えて家族の対応力向上をはかるようにしているが、研修の機会などは行っていない。	子どもだけでなく、家族に対しても意識を高め、研修などの機会をもっていきたいです。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	75%	25%	契約時にご説明を行っております。	契約時は説明することが多く、伝わりきらないことも多いと考えられるので、予約時や請求時にもご説明をし、保護者様にとって疑問の無いよう努めていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	個別支援計画作成時に必ず意向を確認しております。	子ども・保護者いずれの意向も汲み取りやすい雰囲気と機会を作っていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	契約時や個別支援計画作成時にご説明を行っております。	保護者様の意向も踏まえながら、同意を得られるようなご説明を行います。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	面談時だけでなく、日ごろの送迎時などでも相談に応じられるような体制作りを心掛けております。	家族の悩みに対する助言が外的にならないよう、背景や状況をよく考えながら支援を行っていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0%	100%	保護者会などは開催できていないが、きょうだい同士で交流する機会があります。	昨年も実施できませんでしたが、保護者会や交流会などを実施することにより、連携できる場を広げていきたいです。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	ご意見があった時は、改善の機会ととらえ、真摯に対応するよう心掛けています。	気軽に相談しやすい・気になることを確認したい、という雰囲気や機会を作っていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	毎月通信を発行しております。	紙媒体だけでなく、電子媒体での発信も実施できるようになってきました
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	定められ通り、個人情報の流出には細心の注意を払うようにしております。	職員の入れ替わり時、子ども同士のやり取りなど、個人情報が流出しそうな場面には特に注意を払うようにします。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	言葉だけでなく、様々なツールを使いながら、最も理解しやすい形を考えるようにしております。	情報が正しく伝わっているかどうか等、配慮が正しいか不足ではないかを考えながら意思の疎通を行っています。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25%	75%	職員が地域住民であるため地域の行事に参加することは多くあるが、逆は出ていない	職員が地域住民であり、地域に開かれてはいるが、地域移行、地域支援も考え、開かれた事業運営をはかってまいります	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	契約時に保護者様にお見せできるマニュアルを作成し、配布しております。	発生したときの具体的な対応を保護者様に周知するように努めます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	BCPは策定出来ており、災害時訓練も年2回実施しております。	災害は様々なパターンがあると考えられるので、年2回の訓練以外でも訓練をしていきたいです。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	契約時に把握をします。また、情報に変更がないか季節ごとに確認するようにしています。	服薬情報は知らないうちに変わっていることが多いので、こちらも把握しておきたい旨を保護者様に周知しておきます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	契約時に把握をします。また、情報に変更がないかクッキングのイベントごとに確認するようにしています。	アレルギーの情報は知らないうちに変わっていることが多いので、こちらも把握しておきたい旨を保護者様に周知しておきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画は作成してあります。訓練等も定期的に行うようにしております。	安全・危険にはいろいろな場面がありますので、日々、朝礼や会議時に安全管理が出来ているか確認していきたいです。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	75%	25%	緊急時の対応マニュアルは保護者様にも周知されております。	緊急時対応マニュアルは配布しておりますが、内容をどこまで把握されているかということを確認する機会をこまめに作っていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットのフォームがあり情報が記録されているとともに、毎日の朝礼や会議の場で共有や対策を考える場が設けられています。	ヒヤリハットに慣れてしまい、形骸化しないよう、継続していき、より良い支援が出来るよう検討を重ねていきます。報告書のファイリングをきちんと行いたい
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	研修会には必ず参加するとともに、内部での研修も行っています。	日常業務の慣れから虐待に鈍感になりがちなので、こまめに機会を設けて適切な対応に務めてまいります。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束の必要性があるご利用者様はみえませんが、受け入れる体制は作られています。	やむを得ず身体拘束を行う場面にも遭遇するかと思いますが、技術的に行わずに済むようスキルを磨いていきたいです。	